

生物・生態サイトカード

通しNo.		C-2	更新日	2025/3/19
サイト名		出雲市佐田町反辺のイズモコバイモ群生地		
基本情報	区分	<input type="checkbox"/> 動物 <input checked="" type="checkbox"/> 植物		
	生息地	出雲市佐田町反辺		
	分類			
	管理団体／保護団体／モニタリング	発見地反辺のイズモコバイモを守る会		
	留意点	イズモコバイモ:しまねレッドデータブック(絶滅危惧Ⅰ類)		
サイトの解説	生物・生態	<p>イズモコバイモはユリ科の多年草で、草丈15～20cmほどの島根県だけに自生する県固有の希少な植物である。3月上旬から3月下旬にかけて、伸びだした茎の先端に1輪の可憐な白い花を下向きに咲かせる。コバイモのなかまは日本固有の植物で、現在国内に8種が知られており、1979(昭和54)年に新種として発表されたイズモコバイモは、8種のうちの一つである。以前は広範囲に分布していたものと思われるが、環境の悪化や山草愛好者等による盗採などにより各地で姿を消しつつあり、島根県のレッドデータブックでは絶滅の恐れが最も高い絶滅危惧Ⅰ類に、国のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。</p> <p>最初に発見されたのは出雲市佐田町反辺地区で、イズモコバイモ(出雲小貝母)の名前は発見地である出雲から名付けられたものである。イズモコバイモが数千本以上花をつける群生地は、発見地である出雲市反辺地区の他、大田市大江高山地区、川本町川谷地区の3カ所が知られており、中でも県内最大の群生地である出雲市反辺地区の自生地は、開花した個体数だけで約7千本が確認されている。発芽から開花するまで5～6年を要することから、生育している個体はこの数倍はあると考えられている。</p> <p>いずれの群生地においても、ボランティアによる草刈りや灌木の除去等の継続的な管理が行われており、出雲市反辺地区の自生地の場合には「発見地反辺のイズモコバイモを守る会」により草刈り等の管理や観察歩道の整備、監視カメラの設置、開花期に限定した一般公開(3月中旬)などが行われている。</p>		
	地形・地質、歴史・文化等	<p>この地は、神戸川と波多川が合流する場所で、周囲は標高525mの黒山をはじめ300mを超す山地地形をなしている。この場所一帯の地質は約1500万年前の隆起運動を伴った大規模な地殻変動が起こったことを示している。</p>		
写真・図等			イズモコバイモ	 イズモコバイモの群生状況
			イズモコバイモ	
参考文献		<p>鳴橋直弘(2020) イズモコバイモ. ユリ科コバイモ. .317-327.</p> <p>佐藤仁志(2022) イズモコバイモQ&A. 1-4. 発見地反辺のイズモコバイモを守る会.</p> <p>丸山 巖(1982) 立久恵峡の自然. 立久恵峡の植物概況. 8. 島根県.</p>		